

プロポーズコンテスト開催

応募総数は過去最多の8294点にのぼる

NPO法人 地域活性化支援センター

NPO法人 地域活性化支援センター（静岡県静岡市）は、5月29日、青山セントグレース大聖堂（東京都港区）にて、第12回「全国プロポーズの言葉コンテスト2018」を開催した。

毎年6月第1日曜日の「プロポーズの日」にちなみ、開催しているコンテスト。今回は過去最多となる8294点の応募から、事前審査を通過した上位入賞者11組による、最終コンテストと授賞式を執り行った。参加者は未婚者、既婚者、その場でプロポーズする人の3部門に分かれ、想いを込めた言葉をステージで披露した。

最優秀賞に輝いたのは、「『今だから伝えたいプロポーズ』の部（既婚者）」の杉山ひかりさん（静岡県）。プロポーズの言葉は「母子手帳の父親の年齢ってところ、40代じゃなくて30代のうちに書きたいな」。自宅のコタツで彼に伝えたという。

「私は26歳、彼は38歳。付き合っただけ経っても彼から結婚というワードは出ず。私は結婚もしたいし、早めに子供も欲しい。そこで母子手帳というワードを使って伝えた逆プロポーズです。その後すぐに妊娠、母

子手帳には父親の年齢を39歳と書くことができました。」（杉山さん）

ゲスト審査員は、平昌冬季オリンピックの金メダリスト・高木菜那選手。メダルの色に

ちなみ、同コンテストの選定委員である桂由美氏がバリコレで発表した、「葛飾北斎の神奈川沖波裏」をモチーフにしたゴールドのドレスで登場した。また、2月に結婚したタレントの菊地亜美さんにも「プロポーズアワード」が贈られた。

当日は「第4回恋人の聖地 観光交流大賞2018」も開催。全国の恋人の聖地を対象に、活動実績および観光資源を活かした取り組みの成果報告を募集し、優れたものを表彰、発表している。大賞は、ハートが出来る石橋（熊本県美里町）。10月～2月の11時30分～12時頃、太陽の光が橋の下にハート型を写し出すスポットだ。町の公式観光アプリを使い、同所で写真を撮ると、目が

ハートになった「恋するくまモン」がARで現れる機能を作成。くまモンファンや子供たちにも人気を博した取り組みが評価された。また、バレンタイン企画として、ポッキーを配布した。



▲上位入賞者が集結し発表

囲み取材エピソード



ブランドファッションデザイナー
桂由美氏

ゲスト審査員として参加した、金メダリストの高木菜那選手とタレントの菊地亜美さん。コンテスト終了後、囲み取材に対応していた。

桂由美氏がデザインした、ゴールドのドレスを、お色直しを挟み2着披露した高木選手は「桂先生に直接ドレスを選んでもらい、心に残る1日になりました。これからも自身の頑張りが皆様の元気、勇気に繋がるような選手になりたいです」と語った。

2月に結婚した菊地さんは、夫が暮らす大阪から、前日に速達で送ってもらった1カラットのダイヤの指輪を披露。近々、ヨーロッパに新婚旅行に出発、今秋には挙式を予定しているという。

ウエディングドレスを探しているという菊地さんに、桂氏は「ぜひ相談に来て下さいね」と言葉をかけた。



▲桂氏のゴールドドレスを着用した高木菜那さん